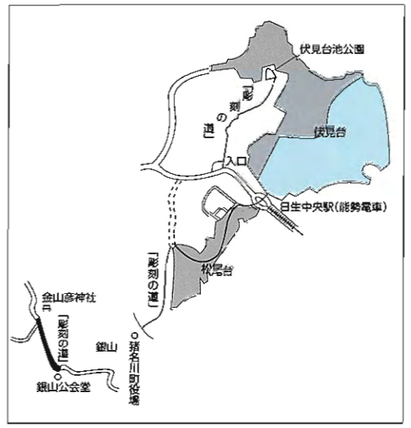
EARVING ROAD IN INAGAWA T.

いながわ 彫刻の道

兵庫県猪名川町

EARVING ROAD IN INAGAWA T.



楽しい石彫で飾られた「猪名川町・彫刻の道」は、三つのコースがあります。

一つめは、日生中央駅から松尾台を通って猪名川町役場に通じる道。二つめは、日生中央駅から北西へ約五分のところから始まり伏見池公園に伸びる道です。三つめは、多田銀銅山悠久の館から金山彦神社までの道です。田園の緑を背景に、あるいは整備された家並みに点在するユーモラスな表情の羅漢像やユニークな裸像が、それぞれの猪名川町の四季を映し出し、魅力的な風景を創り出しています。

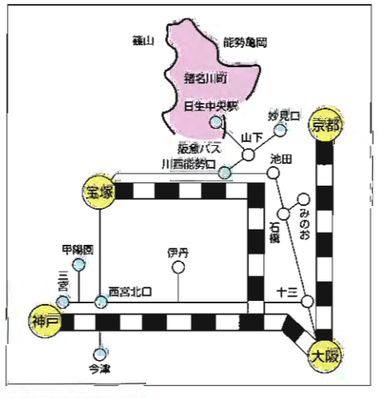
ニュータウン内の伏見台地区、松尾台地区さらには歴史街道沿いにも道標の役割りを演じてくれる石彫もあり、百数十体の彫刻がそれぞれの表情で行き交う人を眺めているようです。

猪名川町は、このほかにも春の山菜摘み、夏の川あそび、秋になると栗ひろいやマツタケ狩り、そして冬にはボタン鍋や数多くの文化財めぐりなどが楽しめます。

●大阪・神戸から――。
（阪急宝塚線）川西能勢口→
（JR福知山線）川西池田→
（能勢電鉄）山下／日生中央

●京都方面からは――。
（国道9号）亀岡湯の花温泉経由→
（国道１７３号）猪名川町

●篠山／三田方面からは――。
（県道川西篠山／三田線）猪名川町



お問い合わせは
猪名川町役場・猪名川町観光協会
TEL072(766)0001　FAX072(766)7725
〒666-0292
兵庫県川辺郡猪名川町上野字北畑11の1

作者・鈴木政夫さんのはなし

ことの始まりは、阪急日生ニュータウンの環境造型の制作に従事したことでありました。現在、そのニュータウンの街角、広場等に、私の制作した石彫が約一五〇点設置されています。

私は終戦以来幾回か東京で個展を開きました。もちろん作品が売れるはずもなく、それらの作品が、広くもない私の工房の庭に雑然と放置されていました。そんな時、ご理解を示していただいたのが猪名川町のまちづくりでした。

ニュータウンと内馬場集落を結ぶ生活道路に設置され、一件落着となったわけでありました。

いずれ倒壊するか、いたずらされるのではないか、となかば覚悟していたのですが、その後現地を訪ねて、そこに住んでおられる方々の意向も聞きましたが、まったくそのような心配のないことを知って、実はホッとしたのでありました。

それから四、五年すぎたある日、担当の方から次のような話がありました。

第一次の彫刻の道を更に延長して、町役場までの約二・五kmほどの道沿いに、二五ヶ所ほど彫刻を設置し、この彫刻の道を完了したい、ということでした。

その話を聞いて私はびっくりしてしまいました。

「とにかく現地へ行きます。そしてこの目で今まで設置された数多くのニュータウン内の作品を見て、彫刻が邪魔になっていっそ彫刻が無い方がいいのでは、と感じた場合、残念ながらこの話はご辞退した方がいいと思います」と返事をしたのでした。

その後、ニュータウン内の作品、内馬場の作品をゆっくり見て歩いたのでありました。

私がいちばん心配していた点はそれ程でもありませんでした。といっても、私の作品がよかったから、というのではもちろんありません。一言でいえば「石彫が街の中に融け込んでいた」ということでありました。これは大変なことで、今まで私が言い続け、思い続けてきたことの、ひとつの解答でもあったわけでありました。そして、これこそこれからのまちづくりの中で一番大切なものだな、と確信を持ったのでありました。

ヨーロッパと同じようなまちづくりをこの日本でしたところで何の意味があるのか。そうしたものをつくってみたところで、所詮は飾物でしかなく、そこに住んでいる人に融け込むはずもない。日本には、日本にしかない風土がある。これを無視して何が出来るか、ということであります。それに付け加えれば、住民サイドの日常性のないものは受け付けるわけがない、ということであります。

そして私がここで発見したことは、その作品の差材のことでありました。もしもこれらの作品群が、大理石やブロンズで出来ていたらどうだったであろうか、と。ところが日本産の粗略な花崗岩であったことがどんなにプラスしていたことか。

しかし驚いたことに、その日本産の粗略な花崗岩が、戦後の野外彫刻展（コンクール、シンポジウム等）の主たる素材であったとは。しかしこの場合は、素材ただひとつのオブジェであって、つまり日本の伝統的な「庭石」を逆手にとって、あたかも現代の新しい造型作品であるかのように立ち回っただけであって、これは彫刻とは何ひとつ関係のないものと私は信じています。

そんなわけで、第二次の彫刻の道の作品を作ることになった次第でありました。

いいにつけ悪いにつけ、この第二次の彫刻の道の作品は、言うなれば私の彫刻人生の総集編であろうかと思っています。

このたびの彫刻制作を進めて行く上で、何よりも嬉しかったことは、担当の方々が何ひとつ文句もつけず、条件もつけず、まったく私の自由意志を尊重していただけたということでした。

これは大変なことで、ただただここで深く感謝いたす次第であります。

あなた自身に出会えるかも知れない……もしかすると

その日、その日によって微妙にその表情を変える彫刻たち―百七十余の彫刻をひとつひとつ眺めてみると、オヤッということがあります。どこか私に似ているな、これはお父さんにソックリだ。

それはきっと見る人の心が映し出されているのでしょう。

作者の鈴木政夫さんは、彫刻のモチーフについて次のように語っています。

「まず男と女の愛。つぎに親と子の愛情、信仰の対象としての地蔵。生きることは何だ、と問いかける羅漢の姿――」

その意図どおり彫刻は、私たちにいろいろなことを教えてくれます。彫刻のひとつひとつに、「頬に手を」「家族の広場」「空」「私のピラミッド」などの名称がつけられていますが、むしろ、ひとりひとりが〝自分だけ〟の愛称をつけて楽しむのもまた、うれしい試みです。

さりげなく、どこまでもさりげなく人びとの暮らしの一部となっているこの彫刻は、けっして自分の存在を見る人に押しつけることはありません。

そうかといって、訪れる人たちを拒むということもないのです。作者が期待したように風景の中に完全に融けこんでしまっています。

02

03

01

07

05

06

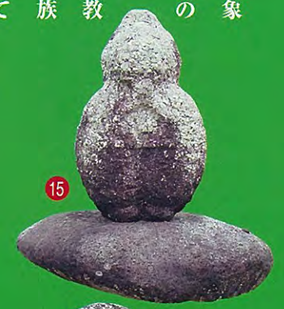
04

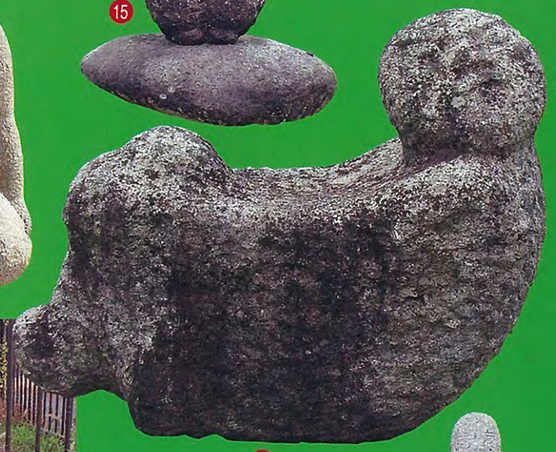
08

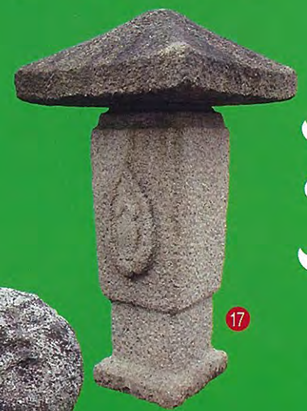
09

10

11


15


20


17

24

16

12

13

14

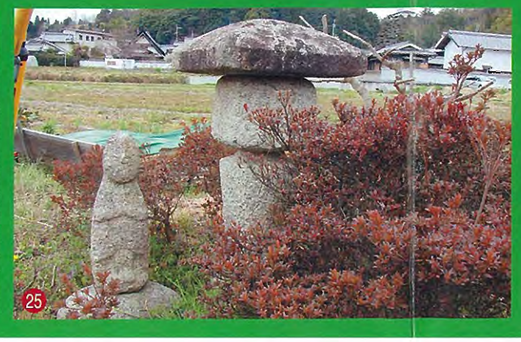
21

22

18

27

19


25

26

28

23

日生ニュータウンは笑顔がいっぱい

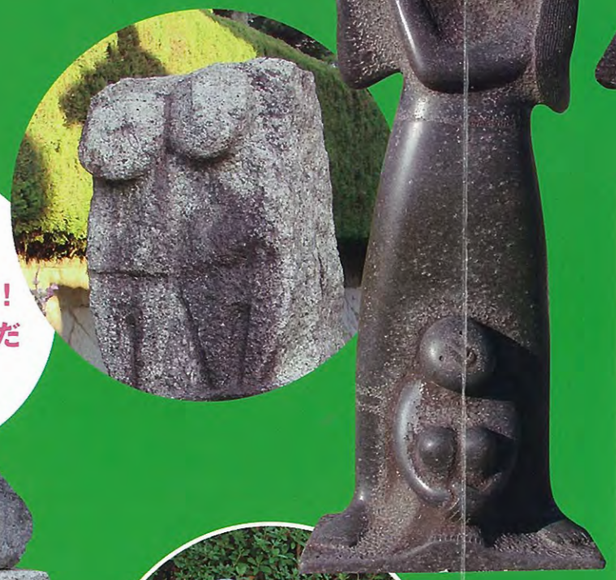
猪名川町は、清らかな水、豊かな緑、澄みきった空気という恵まれた自然を背景に、住民だれもがいつまでも、すばらしいふるさとと実感でき、愛着と誇りをもって暮らすことのできる「温かく、優しく、やすらぎのある快適な街」の創造に向け、取り組んでおります。

中でも近年は、芸術と文化の香りの高い町づくりに力を注いでおり、そのひとつが石彫作家の鈴木政夫先生にお世話になったものです。

彫刻の道、ニュータウンの車止め、町名表示の道標など約一七〇余の作品が点在しており、他の町にはない風情が漂っております。

四季の変化とともに織りなす自然の中で、さまざまな表情を見せてくれます。皆様もぜひ一度ご覧ください。

こっちはオコリンボのパパの顔――。



大きなオッパイ！
ママとおんなじだ

ニュータウンの新しい風景をつくり出した彫刻群。「上を向く羅漢」「親と子と」「私のピラミッド」などそれぞれイメージをふくらませてくれる彫刻たち――それはまた、見る人の気持ちをみごとに反映しています。

楽しい思いで眺める彫刻は、どれもこれも愉快な表情で、チョット悲しいときは慰め顔の彫刻たち。

このまちに住む人たちにとって、ひとつひとつの彫刻にそれぞれの想い出や自分のこころを託すのが習慣になっています。そして、こどもたちも学校の行き帰りに〝お気に入り〟の彫刻に語りかけるのかも知れません。友だちとケンカしたこと、先生にしかられたこと、テストの点数が良かったときは、見せびらかしたいような気持ちなのです。そんな出会いを通じて、こどもたちの豊かな情操が育てられるのです。

この彫刻の作者である鈴木政夫さんは、「まちの人たちに愛されるのにこしたことはないが、むしろ生活の一部としてなにげなく扱われたほうがいい」と語っておれれますが、その点では彫刻のひとつひとつが、まちの一部となり、なんの違和感も感じさせません。

今日も彫刻たちは、このまちの人たちとともに笑い、よろこび、悲しみ、そして怒ったり泣いたりしているのです。

歴史街道でも会えるよ

三つのコース以外にも、銀山からふるさと館まで続く歴史街道沿いに伏見台や内馬場地内から移設した石彫数点が設置されており、これまでどおり道行く人たちに安らぎを与えてくれています。